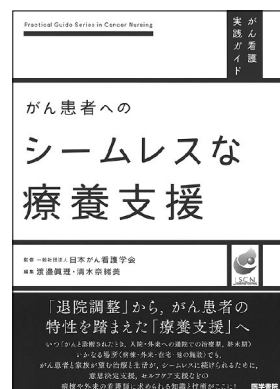


『がん患者へのシームレスな療養支援』 今日のがん医療・がん看護 の現場に必要な知識が系統 立ててわかる 1冊

監修：一般財団法人 日本がん看護学会／編集：渡邊眞理・清水奈緒美／
定価：3,000 円＋税／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



17年の臨床経験後、13年ばかり、大学で成人看護学・老年看護学・リハビリテーション看護学の教育に携わっている。臨床でがん患者さんと数えきれない出会い、肉親や親戚にもがん罹患者は多く、私にとってがんは身近であり、とても辛い経験をしてきた。

日本では「2人に1人ががんにかかる時代」となりつつある一方、手術や薬剤の進歩によって「治る」がんも増えてきた。手術後の継続治療は慢性疾患のようにとらえられつつある。しかし、他の疾患と違うのは「死」が近くにあることだ。

昨年、一般病院の地域連携室(退院支援担当)の看護師らを研究支援する機会があった。彼女たちは、入院期間の短縮化によって、がん患者の退院指導や退院調整が十分行えないまま退院になるケースが多いこと、また、病棟看護師と退院支援看護師の連携がうまくいかないことに問題を感じていた。

そこで、臨床の看護師に良い参考図書はないか、かつ看護基礎教育で使えるテキストはないかと探したところ、本書に出会ったわけである。「シームレス」とは「継ぎ目のない、途切れのない」という意味である。本タイトルは、がん患者の治療・ケアの継続性はもちろん、ケアをする看護師が患者のいる場所を問わず連続した看護、療養支援が提供できるようにと考えられたのだろう。

本書は、3つの章で構成されており、第1章は日本の社会動向からがん医療の流れ、がん看護の方向性が大きく変換していくこと、第2章では病棟と外来との間でシームレスな療養支援に必要な基礎知識とスキルについて書かれている。また、代表的ながんの事例をもとに、患者や家族の意思決定支援の方法、療養支援に必要な制度、症状マネジメント、緊急時の準備と対応、家族ケア、在宅療養時の医療技術について、専門看護師の実践を言語化しているため臨場感があり、とてもわかりやすい。第3章では治療期と終末期に分けて、支援の方法を丁寧に書いている。

上記のような研究支援を行った看護師たちの問題は、今日の医療のなかではどこにでもあるものと推察される。その意味で本書の出版は臨床で望まれ、本書は彼女たちが抱えている問題解決の糸口となり、実践ガイドとして活用されることだろう。また、看護基礎教育の学生のテキストとしても、社会の動向、がん患者のケアに関する基礎知識、意思決定の支援、療養支援に必要な制度、連携のステップなどが系統立てられ、図表もわかりやすく良書である。本書は成人を対象として書かれたものであり、今後は高齢のがん患者、小児のがん患者を対象とした療養支援のシリーズ化を期待する。